

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者、大学名

学校法人日本赤十字学園：日本赤十字北海道看護大学

学校法人日本赤十字学園：日本赤十字秋田看護大学

学校法人日本赤十字学園：日本赤十字豊田看護大学

学校法人日本赤十字学園：日本赤十字広島看護大学

学校法人日本赤十字学園：日本赤十字九州国際看護大学

(2) 大学の位置

(日本赤十字北海道看護大学)

〒090-0011：北海道北見市曙町664番地の1

(日本赤十字秋田看護大学)

〒010-1493：秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17番地3

(日本赤十字豊田看護大学)

〒471-8565：愛知県豊田市白山町七曲12番33

(日本赤十字広島看護大学)

〒738-0052：広島県廿日市市阿品台東1番2号

(日本赤十字九州国際看護大学)

〒811-4157：福岡県宗像市アスティ1丁目1番地

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(3) 管理運営組織

大学名	職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
日本赤十字北海道看護大学	理 事 長 (該当しない場合は不要)	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学 長	カワグチ ヨ 河口 てる子 (平成23年4月)	—	—
	研究科長	カワグチ ヨ 河口 てる子 (平成28年4月)	ニシカタ クミコ 西片 久美子 (平成28年4月)	
日本赤十字秋田看護大学	理 事 長 (該当しない場合は不要)	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学 長	アンドウ ヒロコ 安藤 広子 (平成25年4月)	—	—
	研究科長	フジイ ヒロヒデ 藤井 博英 (平成28年4月)	ヤマダ ノリコ 山田 典子 (平成29年4月)	
日本赤十字豊田看護大学	理 事 長 (該当しない場合は不要)	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学 長	アンドウ ツネサブロウ 安藤 恒三郎 (平成24年4月)	カマクラ 鎌倉 やよい (平成28年4月)	
	研究科長	ニシカタ クミコ 西片 久美子 (平成28年4月)	ヤマダ サトコ 山田 聡子 (平成28年4月)	

日本赤十字 広島看護大学	理 事 長 (該当しない 場合は不要)	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学 長	コヤマ マリコ 小山 真理子 (平成24年4月)	—	—
	研究科長	マサキ ナオコ 真崎 直子 (平成28年4月)	ヒヤクタ タケシ 百田 武司 (平成28年4月)	
日本赤十字九州国 際看護大学	理 事 長 (該当しない 場合は不要)	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学 長	ウラタ キクコ 浦田 喜久子 (平成25年4月)	タムラ ヤヨイ 田村 やよひ (平成28年4月)	
	研究科長	ホンダ タミエ 本田 多美枝 (平成28年4月)	—	—

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を
() 書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(4) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(4) - ① 調査対象研究科等の名称等

大学名	調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
			修業年限	入学定員	収容定員	
日本赤十字 北海道看護大学	大学院看護学研究科 共同看護学専攻 (博士後期課程) 博士(看護学)	博士 (看護学)	3年	2人	6人	基礎となる学部等 看護学部
日本赤十字 秋田看護大学	大学院看護学研究科 共同看護学専攻 (博士後期課程) 博士(看護学)	博士 (看護学)	3年	2人	6人	基礎となる学部等 看護学部
日本赤十字 豊田看護大学	大学院看護学研究科 共同看護学専攻 (博士後期課程) 博士(看護学)	博士 (看護学)	3年	2人	6人	基礎となる学部等 看護学部
日本赤十字 広島看護大学	大学院看護学研究科 共同看護学専攻 (博士後期課程) 博士(看護学)	博士 (看護学)	3年	2人	6人	基礎となる学部等 看護学部
日本赤十字 九州国際看護大学	大学院看護学研究科 共同看護学専攻 (博士後期課程) 博士(看護学)	博士 (看護学)	3年	2人	6人	基礎となる学部等 看護学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(4) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

大学名	報告年度 区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超 過 率	備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
日本赤十字北海道看護大学	A 入学定員	2人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	2人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	1.75 倍	
	志願者数	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	5 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	受験者数	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	5 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	合格者数	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	4 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	B 入学者数	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	4 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	入学定員超過率 B/A	1.50		2.00		ー			
日本赤十字秋田看護大学	A 入学定員	2人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	2人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	1.25 倍	
	志願者数	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	受験者数	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	合格者数	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	2 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	B 入学者数	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	2 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	入学定員超過率 B/A	1.50		1.00		ー			
日本赤十字豊田看護大学	A 入学定員	2人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	2人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	ー人 (ー) [ー]	1.25 倍	
	志願者数	2 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	受験者数	2 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	合格者数	2 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	B 入学者数	2 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	3 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
	入学定員超過率 B/A	1.00		1.50		ー			

日本赤十字広島看護大学	A 入学定員	2人 一人 (—) [—]	2人 一人 (—) [—]	一人 一人 (—) [—]	1.75 倍
	志願者数	4 (—) (—) [—] [—]	6 (—) (—) [—] [—]	— (—) (—) [—] [—]	
	受験者数	4 (—) (—) [—] [—]	6 (—) (—) [—] [—]	— (—) (—) [—] [—]	
	合格者数	4 (—) (—) [—] [—]	3 (—) (—) [—] [—]	— (—) (—) [—] [—]	
	B 入学者数	4 (—) (—) [—] [—]	3 (—) (—) [—] [—]	— (—) (—) [—] [—]	
	入学定員超過率 B/A	2.00	1.50	—	
日本赤十字九州国際看護大学	A 入学定員	2人 一人 (—) [—]	2人 一人 (—) [—]	一人 一人 (—) [—]	1.00 倍
	志願者数	2 (—) (—) [—] [—]	2 (—) (—) [—] [—]	— (—) (—) [—] [—]	
	受験者数	2 (—) (—) [—] [—]	2 (—) (—) [—] [—]	— (—) (—) [—] [—]	
	合格者数	2 (—) (—) [—] [—]	2 (—) (—) [—] [—]	— (—) (—) [—] [—]	
	B 入学者数	2 (—) (—) [—] [—]	2 (—) (—) [—] [—]	— (—) (—) [—] [—]	
	入学定員超過率 B/A	1.00	1.00	—	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(4) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

大学名	報告年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
日本赤十字北海道看護大学	1年次	3 [-] (-)	— [-] (-)	4 [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	
	2年次			3 [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	
	3年次					— [-] (-)	— [-] (-)	
	計	3 [-] (-)		7 [-] (-)		— [-] (-)		
日本赤十字秋田看護大学	1年次	3 [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	
	2年次			3 [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	
	3年次					— [-] (-)	— [-] (-)	
	計	3 [-] (-)		5 [-] (-)		— [-] (-)		
日本赤十字豊田看護大学	1年次	2 [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	
	2年次			2 [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	
	3年次					— [-] (-)	— [-] (-)	
	計	2 [-] (-)		5 [-] (-)		— [-] (-)		
日本赤十字広島看護大学	1年次	4 [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	
	2年次			4 [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	— [-] (-)	
	3年次					— [-] (-)	— [-] (-)	
	計	4 [-] (-)		7 [-] (-)		— [-] (-)		

日本赤十字九州国際看護大学	1年次	2 [—] (—)	— [—] (—)	2 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
	2年次			2 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
	3年次					— [—] (—)	— [—] (—)
	計	2 [—] (—)		4 [—] (—)		— [—] (—)	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(4) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

大学名	区 分 対象年度	入学者数 (b)	退学者数 (a)	退学者数 (内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
				退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
日本赤十字北海道看護大学	平成28年度入学者	3 人	0 人	平成28年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成29年度	0 人	— 人	—	
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成29年度入学者	4 人	0 人	平成29年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成30年度入学者	— 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	—	#VALUE! %
	合 計	7 人	0 人					0 %
日本赤十字秋田看護大学	平成28年度入学者	3 人	0 人	平成28年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成29年度	0 人	— 人	—	
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成29年度入学者	2 人	0 人	平成29年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成30年度入学者	— 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	—	#VALUE! %
	合 計	5 人	0 人					0 %
日本赤十字豊田看護大学	平成28年度入学者	2 人	0 人	平成28年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成29年度	0 人	— 人	—	
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成29年度入学者	3 人	0 人	平成29年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成30年度入学者	— 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	—	#VALUE! %
	合 計	5 人	0 人					0 %
日本赤十字広島看護大学	平成28年度入学者	4 人	0 人	平成28年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成29年度	0 人	— 人	—	
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成29年度入学者	3 人	0 人	平成29年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成30年度入学者	— 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	—	#VALUE! %
	合 計	7 人	0 人					0 %

日本赤十字九州国際看護大学	平成28年度入学者	2 人	0 人	平成28年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成29年度	0 人	— 人	—	
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成29年度入学者	2 人	0 人	平成29年度	0 人	— 人	—	0 %
				平成30年度	— 人	— 人	—	
	平成30年度入学者	— 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	—	#VALUE! %
	合 計	4 人	0 人					0 %

(注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護学研究科 共同看護学専攻>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	構 成 大 学	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
共 通 科 目	看護理論	1・2 前 1・2 後	日本赤十字 豊田看護 大学		1								
	赤十字人道援助論	1・2 後	日本赤十字 秋田看護 大学		1								
	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	1・2 前	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 九州国際 看護大学		1		2	1	1				
	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)	1・2 後	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 豊田看護 大学		1		2						
	科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発)	1・2 前	日本赤十字 北海道看護 大学		1		2						
	科学的研究方法論Ⅳ (質的研究)	1・2 後	日本赤十字 九州国際 看護大学 日本赤十字 北海道看護 大学		1		2						
	科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)	1・2 前	日本赤十字 九州国際 看護大学		1		1						
	科学的研究方法論Ⅵ (理論構築)	1・2 後	日本赤十字 北海道看護 大学		1		1						
	臨床倫理論	1・2 後	日本赤十字 九州国際 看護大学 日本赤十字 北海道看護 大学		1		2						

専門科目	看護人材開発特論	1・2前	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字豊田看護大学	2		4					
	実践看護学特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学	2		2					
	療養生活看護学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学	2		3					
	生涯発達看護学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字秋田看護大学	2		4					
	広域連携看護学特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2		5					
	災害救護特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2		2					
	健康科学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学	2			1				
演習	看護学演習	1通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2		24	1				

合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	1			24	1						
特別研究	2～3通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	8			22							

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の2)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

大学名	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
日本赤十字北海道看護大学	科目 3	科目 8	科目 —	科目 11	科目 3 [0]	科目 9 [1]	科目 — [—]	科目 12 [1]	
日本赤十字秋田看護大学	科目 3	科目 3	科目 —	科目 6	科目 3 [0]	科目 3 [0]	科目 — [—]	科目 6 [0]	
日本赤十字豊田看護大学	科目 3	科目 4	科目 —	科目 7	科目 3 [0]	科目 3 [Δ1]	科目 — [—]	科目 6 [0]	
日本赤十字広島看護大学	科目 3	科目 4	科目 —	科目 7	科目 3 [0]	科目 4 [0]	科目 — [—]	科目 7 [0]	
日本赤十字九州国際看護大学	科目 3	科目 7	科目 —	科目 10	科目 3 [0]	科目 7 [0]	科目 — [—]	科目 10 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

	番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
日本赤十字 北海道看護 大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字 秋田看護大 学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字 豊田看護大 学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字 広島看護大 学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字 九州国際看 護大学	1	該当なし					
	2						
	3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

	番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
日本赤十字 北海道看護 大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字 秋田看護大 学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字 豊田看護大 学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字 広島看護大 学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字 九州国際看 護大学	1	該当なし					
	2						
	3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

日本赤十字北海道看護大学：該当なし

日本赤十字秋田看護大学：該当なし

日本赤十字豊田看護大学：該当なし

日本赤十字広島看護大学：該当なし

日本赤十字九州国際看護大学：該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(日本赤十字北海道看護大学)

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(日本赤十字秋田看護大学)

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(日本赤十字豊田看護大学)

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(日本赤十字広島看護大学)

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(日本赤十字九州国際看護大学)

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

(日本赤十字北海道看護大学)

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等
-----------------	-------------------------

(日本赤十字秋田看護大学)

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	日本赤十字秋田短期大 学（必要面積1,000 ㎡）と共用			
	校 舎 敷 地	1,267.55 ㎡	4,060.44 ㎡	－ ㎡	5,327.99 ㎡				
	運動場用地	－ ㎡	9,408.69 ㎡	－ ㎡	9,408.69 ㎡				
	小 計	1,267.55 ㎡	13,469.13 ㎡	－ ㎡	14,736.68 ㎡				
	そ の 他	－ ㎡	24,436.30 ㎡	－ ㎡	24,436.30 ㎡				
	合 計	1,267.55 ㎡	37,905.43 ㎡	－ ㎡	39,172.98 ㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	日本赤十字秋田短期大 学（必要面積1,600 ㎡）と共用			
		3,522.81 ㎡ (3,522.81 ㎡)	7,907.76 ㎡ (7,907.76 ㎡)	915.44 ㎡ (915.44 ㎡)	12,346.01 ㎡ (12,346.01 ㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		12室	20室	7室	1室 (補助職員一人)	1室 (補助職員一人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		看護学研究科共同看護学専攻			4 室				
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 外国書と視聴覚資料の 購入金額と予算との調 整による内国書の減及び 学術雑誌の休刊のため (28) 電子ジャーナルの増加 数が学術雑誌の増加数 を上回った理由は、学 術雑誌の電子化無料公 開等により冊子体の購 入中止や休刊のため である(29)	
	看護学研究科共 同看護学専攻	39,780 [4,690] (37,596 [4,566]) (36,423 [4,495]) (36,660 [4,480])	2,000 [820] (2,092 [757]) (1,941 [757]) (1,950 [800])	1,900 [800] (1,992 [736]) (1,836 [736]) (1,850 [780])	2,420 (2,332) (2,196) (2,180)	2,011 (2,010) (2,011)	43 (43)		
	計	39,780 [4,690] (37,596 [4,566]) (36,423 [4,495]) (36,660 [4,480])	2,000 [820] (2,092 [757]) (1,941 [757]) (1,950 [800])	1,900 [800] (1,992 [736]) (1,836 [736]) (1,850 [780])	2,420 (2,332) (2,196) (2,180)	2,011 (2,010) (2,011)	43 (43)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		835.02㎡		118		45,000			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		1,283.84㎡		テニスコート2面					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	600千円	600千円	図書購入費	2,000千円	500千円	500千円	
		共 同 研 究 費 等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	1,000千円	－ 千円	－ 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,500千円	1,100千円	1,100千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等						

(日本赤十字豊田看護大学)

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積： 35,478.00㎡ 借用期間：30年			
	校 舎 敷 地	45,053㎡	－ ㎡	－ ㎡	45,053㎡				
	運動場用地	4,454㎡	－ ㎡	－ ㎡	4,454㎡				
	小 計	49,507㎡	－ ㎡	－ ㎡	49,507㎡				
	そ の 他	5,681㎡	－ ㎡	－ ㎡	5,681㎡				
	合 計	55,188㎡	－ ㎡	－ ㎡	55,188㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		14166.36㎡ (14,166.36㎡)	－ ㎡ (－ ㎡)	－ ㎡ (－ ㎡)	14166.36㎡ (14,166.36㎡)	借用面積： 340.81㎡ 借用期間：30年			
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		9室	14室	6室	1室 (補助職員一人)	1室 (補助職員一人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		看護学研究科共同看護学専攻			12 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書移管及び整備品目 追加による増 (28) 図書移管及び整備品目 追加による増 (29)	
	看護学研究科共同看護学専攻	50,000 [3,000] (50,394[2,992]) -(49,262[2,924]) -(47,000[2,700])	220 [36] (217 [36])	1,486 [1,470] (1,486 [1,470])	2,000 (2,150) -(2,052) -(2,000)	7,665 (7,878) -(7,845) -(7,659)	321 (321)		
	計	50,000 [3,000] (50,394[2,992]) -(49,262[2,924]) -(47,000[2,700])	220 [36] (217 [36])	1,486 [1,470] (1,486 [1,470])	2,000 (2,150) -(2,052) -(2,000)	7,665 (7,878) -(7,845) -(7,659)	321 (321)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 閲覧席増加による増 (29)	
		1,265.67㎡		121 124		71,725			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		1,656.74㎡		テニスコート2面					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	508千円	508千円	図書購入費	685千円	685千円	685千円	
		共同研究費等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	1,500千円	1,500千円	1,500千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,500千円	1,100千円	1,100千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等						

(日本赤十字広島看護大学)

区 分		内 容				備考			
(1)校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積： 6,678.10㎡ 借用期間：22年			
	校 舎 敷 地	34,228.84㎡	－ ㎡	－ ㎡	34,228.84㎡				
	運動場用地	4,460.00㎡	－ ㎡	－ ㎡	4,460.00㎡				
	小 計	38,668.84㎡	－ ㎡	－ ㎡	38,668.84㎡				
	そ の 他	2,220.41㎡	－ ㎡	－ ㎡	2,220.41㎡				
	合 計	40,909.25㎡	－ ㎡	－ ㎡	40,909.25㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		19,437.53㎡ (19,437.53㎡)	－ ㎡ (ー ㎡)	－ ㎡ (ー ㎡)	19,437.53㎡ (19,437.53㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 大学院情報処理室を廃し、大学院研究室1に変更した。情報処理端末は大学院研究室1～3に配備した (28) 多目的実習室を講義室301に名称変更。研究室、共同研究室を演習室に名称変更 (29)		
		10室 9室	14室 8室	6室 7室	2室 3室 (補助職員一人)	1室 (補助職員一人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		看護学研究科共同看護学専攻			10 室				
(5)図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 購入及び寄贈による増冊 (28) 購入及び寄贈による増冊 (29)	
	看護学研究科共同看護学専攻	63,461 [7,399] (68,555 [7,613]) (67,801 [7,520]) (63,461 [7,399])	628 [109] (649 [110]) (628 [109])	2,992 [2,030] (3,296 [2,059]) (3,181 [2,059]) (2,992 [2,030])	1,220 (1,366) (1,300) (1,220)	－ (ー)	－ (ー)		
	計	63,461 [7,399] (68,555 [7,613]) (67,801 [7,520]) (63,461 [7,399])	628 [109] (649 [110]) (628 [109])	2,992 [2,030] (3,296) (3,181 [2,059]) (2,992 [2,030])	1,220 (1,366) (1,300) (1,220)	－ (ー)	－ (ー)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		1,199.00㎡		128		100,000			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		2,136.68㎡		テニスコート					
(8)経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	547千円	547千円	図書購入費	11,800千円	11,800千円	11,800千円	
		共 同 研 究 費 等	2,500千円	2,500千円	設備購入費	18,000千円	18,000千円	18,000千円	
	学生1人当り	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	納付金	1,500千円	1,100千円	1,100千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等						

(日本赤十字九州国際看護大学)

区 分		内 容				備考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積: 20,384.67㎡ 借用期間:30年		
	校 舎 敷 地	23,521㎡	— ㎡	— ㎡	23,521㎡			
	運動場用地	8,287㎡	— ㎡	— ㎡	8,287㎡			
	小 計	31,808㎡	— ㎡	— ㎡	31,808㎡			
	そ の 他	23,032㎡	— ㎡	— ㎡	23,032㎡			
	合 計	54,840㎡	— ㎡	— ㎡	54,840㎡			
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
		13,363㎡ (13,363㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	13,363㎡ (13,363㎡)			
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	演習室の一部をラーニング・コモンズに変更。「実験実習室」は設置申請時、「実験室」のみを記載していた為、修正 (28)	
		10室	6室 40室	5室 1室	4室 (補助職員一人)	1室 (補助職員一人)		
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		研究室配置換えによる 変更 (28)	
		看護学研究科共同看護学専攻			9 14 室			
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書等の新規受入及び 学術雑誌の廃刊のため (28)
	看護学研究科共同看護学専攻	45,947 [7,152] (49,582 [7,372]) (47,765 [7,260]) (45,947 [7,152])	94 [16] (85 [14]) (94 [16])	2,201 [580] (2,367 [567]) (2,234 [582]) (2,201 [580])	1,245 (1,344) (1,302) (1,245)	2,370 (2,342) (2,370)	8 (8)	
	計	45,947 [7,152] (49,582 [7,372]) (47,765 [7,260]) (45,947 [7,152])	94 [16] (85 [14]) (94 [16])	2,201 [580] (2,367 [567]) (2,234 [582]) (2,201 [580])	1,245 (1,344) (1,302) (1,245)	2,370 (2,342) (2,370)	8 (8)	
	(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数	
		905㎡		109		62,000		
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体
		1,182㎡		弓道場				
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	85千円	91千円	図書購入費	1,567千円	1,567千円	1,566千円
		共同研究費等	4,177千円	4,177千円	設備購入費	2,500千円	1,632千円	1,632千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,500千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の2)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 構成大学ごとに記入してください。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	日本赤十字北海道看護大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
看護学部看護学科	年	人	年次 人	人		倍			
	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.12	平成11年度	北海道北見市曙 町664番地の 1	
大学院看護学研究科 看護学専攻 修士課 程	2	16	—	32	修士 (看護学)	0.68	平成15年度	同上	
大学院看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.75	平成28年度	同上	
大 学 の 名 称	日本赤十字秋田看護大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
看護学部看護学科	年	人	年次 人	人		倍			
	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.09	平成21年度	秋田県秋田市上 北手猿田字苗代 沢17番地3	
大学院看護学研究科 看護学専攻 修士課 程	2	12	—	24	修士 (看護学)	0.54	平成23年度	同上	
大学院看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.25	平成28年度	同上	
大 学 の 名 称	日本赤十字看護大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
看護学部看護学科	年	人	年次 人	人		倍			
	4	130	3年次 10	540	学士 (看護学)	1.11	昭和61年度	東京都渋谷区広 尾4丁目1番3 号	
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2	30	—	60	修士 (看護学)	1.00	平成5年度	同上	
大学院看護学研究科 国際保健助産学専攻 博士前期課程	2	15	—	30	修士 (看護学)	1.03	平成19年度	同上	
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	3	8	—	24	博士 (看護学)	1.87	平成7年度	同上	
大学院看護学研究科 共同災害看護学専攻 博士課程	5	2	—	10	博士 (看護学)	1.00	平成26年度	同上	平成29年度入学生 から入学定員・収 容定員の増(29)

大 学 の 名 称	日本赤十字豊田看護大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
看護学部看護学科	年	人	年次 人	人		倍			
	4	120	—	480	学士 (看護学)	1.13	平成16年度	愛知県豊田市白 山町七曲12- 33	
大学院看護学研究科 看護学専攻 修士課 程	2	10	—	20	修士 (看護学)	0.60	平成22年度	同上	
大学院看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.25	平成28年度	同上	
大 学 の 名 称	日本赤十字広島看護大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
看護学部看護学科	年	人	年次 人	人		倍			
	4	125	—	510	学士 (看護学)	1.12	平成12年度	広島県廿日市市 阿品台東1番2 号	
大学院看護学研究科 看護学専攻 修士課 程	2	10	—	20	修士 (看護学)	0.7	平成16年度	同上	
大学院看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.75	平成28年度	同上	
大 学 の 名 称	日本赤十字九州国際看護大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
看護学部看護学科	年	人	年次 人	人		倍			
	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.11	平成13年度	福岡県宗像市ア ステイ1丁目1 番地	
大学院看護学研究科 看護学専攻 修士課 程	2	10	—	20	修士 (看護学) 修士 (保健学)	1.05	平成19年度	同上	
大学院看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.00	平成28年度	同上	
大 学 の 名 称	日本赤十字秋田短期大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
介護福祉学科	年	人	年次 人	人		倍			
	2	50	—	100	短期大 学士 (介護福 祉学)	0.46	平成8年度	秋田県秋田市上 北手猿田字苗代 沢17番地3	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・構成大学毎に記入してください。

5 教員組織の状況

<大学院看護学研究科 共同看護学専攻>

(1) 担当教員表

(日本赤十字北海道看護大学)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	河 口 てる子	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅲ (尺度開発)						
				科学的研究方法 論Ⅵ (理論構築)						
				療養生活看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	中 野 実代子	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅲ (尺度開発)						
				療養生活看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
専	教授	石 崎 智子	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅳ (質的研究)						
				臨床倫理論						
				療養生活看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	伊 藤 善也	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅱ (臨床介入研究)						
専	准教授	山 本 憲志	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅰ (実験研究)	兼任	教授	佐 藤 満	平成29年4月	科学的研究方法 論Ⅰ (実験研究)	
				健康科学特論					健康科学特論	
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
専	教授	根 本 昌宏	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅰ (実験研究)						
専	講師	村 林 宏	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅰ (実験研究)						
兼任	教授	島 井 哲志	平成28年4月	健康科学特論						
					専	教授	西 片 久美子	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅱ (臨床介入研究)	
									生涯発達看護学 特論	
									看護学演習	
									合同研究ゼミ ナール	
									特別研究	

(日本赤十字秋田看護大学)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	安藤 広子	平成28年 4 月	生涯発達看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	鈴木 聖子	平成28年 4 月	広域連携看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	藤井 博英	平成28年 4 月	看護学演習	専	教授	山田 典子	平成29年 4 月	看護学演習	
				合同研究ゼミ ナール					合同研究ゼミ ナール	
				特別研究					特別研究	
兼任	教授	東浦 洋	平成28年 4 月	赤十字人道 援助論						

(日本赤十字豊田看護大学)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	大西 文子	平成28年 4 月	生涯発達看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	西片 久美子	平成28年 4 月	科学的研究方法 論Ⅱ (臨床介入研究)						
				生涯発達看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
専	教授	東野 督子	平成28年 4 月	特別研究						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
専	教授	山田 聡子	平成28年 4 月	特別研究						
				看護人材開発特 論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
専	教授	野口(多賀谷) 真弓	平成28年 4 月	特別研究						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				生涯発達看護学 特論						
兼任	教授	筒井 真優美	平成28年 4 月	看護理論						

(日本赤十字広島看護大学)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	小山 真理子	平成28年 4 月	看護人材開発特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミナール						
				特別研究						
専	教授	植田 喜久子	平成28年 4 月	実践看護学特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミナール						
				特別研究						
専	教授	眞崎 直子	平成28年 4 月	広域連携看護学特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミナール						
				特別研究						
専	教授	中信 利恵子	平成28年 4 月	災害救護特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミナール						
				特別研究						
専	教授	百田 武司	平成28年 4 月	実践看護学特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミナール						
				特別研究						
兼任	教授	小原 真理子	平成28年 4 月	災害救護特論						

(日本赤十字九州国際看護大学)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	岡村 純	平成28年4月	看護学演習	専	教授	守山 正樹	平成29年4月	看護学演習	
				合同研究ゼミ ナール					合同研究ゼミ ナール	
				特別研究					特別研究	
専	教授	小林 裕美	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅳ (質的研究)						
				広域連携看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	鈴木 清史	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅴ (文化人類学的研 究)						
専	教授	高橋 清美	平成28年4月	広域連携看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	姫野 稔子	平成28年4月	科学的研究方法 論Ⅰ (実験研究)						
				広域連携看護学 特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	本田 多美枝	平成28年4月	看護人材開発特 論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	柳井 圭子	平成28年4月	臨床倫理論						
				看護人材開発特 論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	山勢 善江	平成28年4月	災害救護特論						
				看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						
				特別研究						
専	教授	乗越 千枝	平成28年4月	看護学演習						
				合同研究ゼミ ナール						

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の2)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

大学名	完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
日本赤十字北海道看護大学	1 名	1 名	1 名
日本赤十字秋田看護大学	1 名	1 名	1 名
日本赤十字豊田看護大学	1 名	1 名	1 名
日本赤十字広島看護大学	1 名	1 名	1 名
日本赤十字九州国際看護大学	1 名	1 名	1 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

大学名	設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
日本赤十字北海道看護大学	5	1	1	0	7	6	0	1	0	7	6	0	1	0	7
	(6)	(1)	(1)	(0)	(8)						[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	2	0	5			3	0	4			3	0	4		
日本赤十字秋田看護大学	3	0	0	0	3	3	0	0	0	3	3	0	0	0	3
	(3)	(0)	(0)	(0)	(3)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	1	2	0			1	2	0			1	2	0		
日本赤十字豊田看護大学	5	0	0	0	5	4	0	0	0	4	4	0	0	0	4
	(4)	(0)	(0)	(0)	(4)						[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	4	1	0			3	1	0			3	1	0		
日本赤十字広島看護大学	5	0	0	0	5	5	0	0	0	5	5	0	0	0	5
	(5)	(0)	(0)	(0)	(5)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	3	2	0			3	2	0			3	2	0		
日本赤十字九州国際看護大学	9	0	0	0	9	9	0	0	0	9	9	0	0	0	9
	(9)	(0)	(0)	(0)	(9)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	4	3	2			5	2	2			5	2	2		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) -③ 年齢構成

大学名	年齢構成		
	定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
日本経済大学 経済学部	65 歳	0 名	0 名
日本経済大学 経済学部	65 歳	2 名	2 名
日本経済大学 経済学部	65 歳	0 名	0 名
日本経済大学 経済学部	65 歳	1 名	1 名
日本経済大学 経済学部	65 歳	1 名	1 名

- （注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

大学名	番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
日本赤十字北海道看護大学										
日本赤十字秋田看護大学										
日本赤十字豊田看護大学										
日本赤十字広島看護大学										
日本赤十字九州国際看護大学										
	合 計（A）					後任補充状況の集計（B）				
	就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）		③の合計数（c）		
北海道看護大学北										
秋田看護大学										
豊田看護大学										
広島看護大学										
日本赤十字九州国際看護大学										

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) 一② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

大学名	番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
日本赤十字北海道看護大学							
日本赤十字秋田看護大学							
日本赤十字豊田看護大学							
日本赤十字広島看護大学							
日本赤十字九州国際看護大学							

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)－① ・ (3)－② の合計

大学名	合計(A) + (C)			後任補充状況の集計(B) + (D)					
	辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
北海道 日本赤十字 看護大学北									
日本 赤十字 看護大学秋									
日本 赤十字 看護大学豊									
日本 赤十字 看護大学広									
日本 赤十字 看護大学九									

- (注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

日本赤十字北海道看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

日本赤十字秋田看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

日本赤十字豊田看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

日本赤十字広島看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

日本赤十字九州国際看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (28年4月)	1. 共同教育課程を編成・実施することで、「5つの構成大学の教育研究を『融合』させ、シナジー効果を発揮させることができる」としているが、その内容が不明確であるため、各構成大学の強みとする専門分野（専門科目）を明確にし、共同教育課程を編成する必要性について社会一般に対して十分な説明をすること。	専門領域を一にする5大学の教員が集合し、複数教員で討議、研鑽することによるシナジー効果を期待できることが、この共同教育課程の「強み」である。 学生には1人の主研究指導教員と残りの4大学から副研究指導教員4名が担当となる。学生の研究テーマに関する同一専門領域、周辺領域の教員が各大学から選出され、学生とともに討議、検討する体制である。異なる大学から同一・周辺領域の教員が集合し、学生のテーマに関して討議することは、単一大学の主研究指導教員のみ指導に比較し、学生にとっても研究者である教員にとっても、知的刺激が大きく、教育研究活動により高い効果をもたらす。 また、単一大学の主研究指導教員のみ指導では、その分野の不足部分や弱点がしばしば認められるが、5大学の教員がそれらを補完・強化し、複数教員の連携にて指導を行うことにより、相乗効果が期待できる。 例えば、人材開発に関する研究テーマを持つ学生の場合、看護の基礎教育を専門とする教員、臨床看護の教育を専門とする教員、卒業後の継続教育を専門とする教員、管理部門での教育を専門とする教員、教育方法を専門とする教員などが5大学から選出され、5名の教授陣による連携・協働での討議、指導を行う。このように看護教育や看護管理領域の複数の研究指導教員の集合体による指導・研究体制は、非常に刺激的で専門領域の課題や研究内容、指導方法や研究方法に関して、充実した教育結果、研究活動の広がりが期待される。 このような指導・研究体制であることを平成27年度の広報活動、および平成28年度入試において、5大学共通のパンフレットおよびホームページにて広報し、周知につとめた。広報用パンフレットやホームページでは、所属校の主研究指導教員のほか、各大学から副研究指導教員が選出され、複数の研究指導教員から多角的な視点からの指導が受けられること、5大学の研究指導教員の専門領域・研究内容・研究方法の一覧、	—

2. 「看護学演習」について、シラバスでは、学生が各担当教員に相談した上で関心のあるテーマに関する演習を行う授業科目とされているが、担当教員の決定方法や指導体制など具体的な授業運営方法が不明確であるため、学生に対してあらかじめ十分な説明をすること。

留意事項

複数の教員による指導体制をとること、5大学の教員による補完・強化と相乗効果について説明している。

学生に対しては、入試の募集要項や共同看護学専攻のパンフレットだけの周知でなく、入学時のガイダンスにて説明し、5大学の教員・学生が集合しての合同ガイダンス(5月)にて具体的かつ詳細に説明する。

(28)

学生の希望に基づき、連絡協議会が、1年次の4月に主研究指導教員を決し、同年10月には学生の研究課題に応じて、副研究指導教員を決定する。この主研究指導教員および副研究指導教員が「看護学演習」の担当教員となる。さらに、主研究指導教員の要請により、学生の研究テーマに関する同一専門領域、周辺領域の教員ならびに研究方法を熟知した教員を「看護学演習」の担当教員に加える。複数の教員間の調整は、責任教員である主研究指導教員が担う。

当該科目を博士論文の準備段階として位置づけ、1年次前期は、主研究指導教員となる担当教員の指導を受けながら課題に関する研究論文のレビューなどから研究課題を絞り込む。1年次後期には、副研究指導教員の役割を担える複数の担当教員の支援を得ながら、研究課題に応じた研究デザインおよび研究方法を検討する。さらに、主研究指導教員の要請により、学生の研究テーマに関する同一専門領域、周辺領域の教員ならびに研究方法を熟知した教員の指導を受けることができる。このような教員と副研究指導教員から助言を得ながら責任者である主研究指導教員を中心に複数の教員が学生の指導にあたる。なお、専任教員には、連絡協議会を通して「看護学演習」に関する上述の内容について説明することで対応している。

学生には、①「主研究指導教員の指導により当該年度に履修する授業科目を決定すること」を共同看護学専攻履修の手引きに明記し、②各構成大学の新入生ガイダンスおよび合同ガイダンスにて「看護学演習」のすすめ方に関する説明と、③主研究指導教員による「看護学演習」のすすめ方の指導により説明を行うことで対応している。(28)

3. テレビ会議システムを活用して遠隔授業を実施するに際しては、システム上の問題が生じないよう万全を期すことはもとより、支障事例をあらかじめ想定して速やかに対処できる体制を構築しておくことが、面接による授業形態と同等の質を確保する上で重要である。今後、テレビ会議システムを活用した授業の適切な管理について十分な検討をし、面接による授業との同等性の確保に向けて最大限の努力をすること。併せて、テレビ会議システムを活用することに伴い、学生に対するICTリテラシーについて教育することが望ましい。

本システムは、NTTビズリング（株）が提供しているフレッツIP多地点サービスによるクラウド型テレビ会議システムであり、NTTのIP網だけで構築され、インターネット回線を経由しないことから高いセキュリティと安定した品質が確保されている。また、本システムの円滑な運用のため、システム導入時に各大学に教員1名及び事務職員1名のシステム担当者置き、NTTビズリング（株）から運用操作説明及び維持管理に必要な説明を受け、学内の他の教職員への指導にあたってきた。

加えて、トラブル対応としては、同社との保守契約により、平日、休日とも「テレビ会議ネットワークオペレーションセンター」へ電話連絡することで、設備の管理、会議設定や運用、機器操作等が対処される、フルサポート体制をとっている。また、必要に応じて、同社の専門スタッフによるリモート操作での調整等も可能である。さらに、重要度の高い授業等の場合には同センターに事前連絡することにより、専門スタッフの重点監視体制をとり、即時の対応も可能である。

また、平成28年3月に、全構成大学の教務担当職員を主体に機器操作手順に関する遠隔授業のシミュレーションを実施し、サポート体制の充実を図っている。学生に対しては、①テレビ会議システム機器操作手順マニュアルを作成および配付し、②各構成大学の新生ガイダンスで説明を行っている。さらに、テレビ会議システムを用いた遠隔授業の開講前に開催する。③合同ガイダンス（5月21日10:40～）にて、構成大学の全学生を対象に、機器操作手順に関する遠隔授業のシミュレーションを行うことで学生がテレビ会議システムの操作方法に慣れるよう、学生のICTリテラシーの向上に向けて取り組む予定である。（28）

			これまでテレビ会議システムの故障により授業が開講できなかったという事例は発生していないが、29年度からテレビ会議システムを全構成大学で増設し、遠隔教育システムの整備充実を図った。また、テレビ会議システムに関する学生への説明については前年と同様の内容、時期に実施する(29)	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	意見なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年□□月)		〇〇意見		
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)		〇〇意見		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<看護学研究科 共同看護学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

(日本赤十字北海道看護大学)

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	—

(日本赤十字秋田看護大学)

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	—

(日本赤十字豊田看護大学)

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	—

(日本赤十字広島看護大学)

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 大学院専用（修士課程と共用）の施設・設備を整備した。 ア. 教員研究室（2室） イ. 大学院情報処理室（1室） ウ. 大学院共同研究室（2室） エ. 講義に利用する演習室（6室）	① 学生の修学環境を改善するため看護学研究科共同看護学専攻専用の研究室を確保し、情報処理パソコンを室内に設置した。 大学全体の教室等の変更を行い、講義に利用する演習室は大学全体で共用しているが、修学環境には影響しない。 ア. 大学院研究室（博士課程）（2室） イ. 大学院研究室（博士課程）（3室） ウ. 講義に利用する演習室（6室） 【別添1、別添2】

(日本赤十字九州国際看護大学)

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	—

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）
 - ・ 構成大学ごとに記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

(日本赤十字北海道看護大学)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添3】

b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

- ①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- ②研究指導教員の選定に関する事項
- ③入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- ④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項
- ⑤成績評価の方針に関する事項
- ⑥学位審査委員会の設置に関する事項
- ⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- ⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- ⑨予算に関する事項
- ⑩広報に関する事項
- ⑪自己点検・評価に関する事項
- ⑫FD・SDの推進に関する事項
- ⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD研修会を28年5月に実施した。
本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学(東京・渋谷区)へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況 (教員の参加状況含む)

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をとおして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回実施した。本年度も同時期に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

(日本赤十字秋田看護大学)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添3】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項

②研究指導教員の選定に関する事項

③入学選抜の方針及び実施計画に関する事項

④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項

⑤成績評価の方針に関する事項

⑥学位審査委員会の設置に関する事項

⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項

⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項

⑨予算に関する事項

⑩広報に関する事項

⑪自己点検・評価に関する事項

⑫FD・SDの推進に関する事項

⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD研修会を28年5月に実施した。
本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をととして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回実施した。本年度も同時期に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

(日本赤十字豊田看護大学)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添3】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項

②研究指導教員の選定に関する事項

③入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項

④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項

⑤成績評価の方針に関する事項

⑥学位審査委員会の設置に関する事項

⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項

⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項

⑨予算に関する事項

⑩広報に関する事項

⑪自己点検・評価に関する事項

⑫FD・SDの推進に関する事項

⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD研修会を28年5月に実施した。
本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をととして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回実施した。本年度も同時期に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添3】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項

②研究指導教員の選定に関する事項

③入学選抜の方針及び実施計画に関する事項

④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項

⑤成績評価の方針に関する事項

⑥学位審査委員会の設置に関する事項

⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項

⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項

⑨予算に関する事項

⑩広報に関する事項

⑪自己点検・評価に関する事項

⑫FD・SDの推進に関する事項

⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD研修会を28年5月に実施した。
本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をととして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回実施した。本年度も同時期に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

(日本赤十字九州国際看護大学)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添3】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。
①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項

②研究指導教員の選定に関する事項

③入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項

④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項

⑤成績評価の方針に関する事項

⑥学位審査委員会の設置に関する事項

⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項

⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項

⑨予算に関する事項

⑩広報に関する事項

⑪自己点検・評価に関する事項

⑫FD・SDの推進に関する事項

⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD研修会を28年5月に実施した。
本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をとおして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回実施した。本年度も同時期に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

- (注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
・「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）
・構成大学ごとに記入してください。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

(日本赤十字北海道看護大学)

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。
- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表（予定）時期
平成28年度分の報告書については、平成29年12月公表予定。
 - b 公表方法
大学ホームページに公開予定
- ③ 認証評価を受ける計画
平成26年度に（公財）大学基準協会による認証評価を受審し、認証を受けた（平成27年3月）。
平成33年度に（公財）大学基準協会による評価を受審予定。

(日本赤十字秋田看護大学)

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。
- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表（予定）時期
平成28年度分の報告書については、平成29年12月末までに公表予定。
平成29年度分の報告書については、平成30年12月末までに公表予定。
 - b 公表方法
大学ホームページに公開予定
- ③ 認証評価を受ける計画
平成34年度に（公財）大学基準協会による評価を受審予定。

(日本赤十字豊田看護大学)

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。
- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表（予定）時期
平成28年度分の報告書については、平成29年8月末までに公表予定。
平成29年度分の報告書については、平成30年度中に公表予定（公開時期未定）。
 - b 公表方法
大学ホームページに公開予定
- ③ 認証評価を受ける計画
平成22年度に（公財）大学基準協会により大学基準に適合していると認定され、
認定期間は平成30年3月31日となっている。
平成29年度に（公財）大学基準協会の評価を受審する。

(日本赤十字広島看護大学)

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。
- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表（予定）時期
平成28年度分の報告書については、平成29年6月末までに公表予定。
平成29年度分の報告書については、平成30年6月末までに公表予定。
 - b 公表方法
大学ホームページに公開予定
- ③ 認証評価を受ける計画
平成27年度に（公財）大学基準協会の認証評価を受審した。
学部等の認証評価に併せて、平成34年度に第三者評価を受審する。

(日本赤十字九州国際看護大学)

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
平成28年度分の報告書については、平成29年6月末までに公表予定。
平成29年度分の報告書については、平成30年6月末までに公表予定。
- b 公表方法
大学ホームページに公表予定
- ③ 認証評価を受ける計画
平成27年度に（公財）大学基準協会による認証評価を受審し、
大学基準に適合していると認定された。
学部等の次回受審にあわせ、平成34年度に第三者評価を受審する予定。

- (注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
・ 構成大学ごとに記入してください。

(4) 情報公表に関する事項
(日本赤十字北海道看護大学)

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成28年度分は掲載済み。平成29年度分は平成29年6月30日)

(日本赤十字秋田看護大学)

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成28年度分は掲載済み。平成29年度分は平成29年6月30日)

(日本赤十字豊田看護大学)

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成28年度分は掲載済み。平成29年度分は平成29年6月30日)

(日本赤十字広島看護大学)

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成28年度分は掲載済み。平成29年度分は平成29年6月30日)

(日本赤十字九州国際看護大学)

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成28年度分は掲載済み。平成29年度分は平成29年6月30日)

・ 構成大学ごとに記入してください。